


 YIC 調理製菓専門学校長 須内章雅
 Sunouchi Akimasa

○ 卒業式

何ということでしょう！ 8 日当日朝 JR 徳山駅で在来線を下車し、新山口へ向かうため新幹線の改札を通ってみるとたくさんの人ばかりです。新岩国駅でお客様との接触があったということで列車が止まっているではありませんか！ 降りる前に新幹線が止まっているという情報があればそのまま在来線に到着できるはずでしたが、次の列車はほぼ 1 時間後です。今日だけは遅れるわけにいかないということでタクシー利用を決断しました。結果的には卒業式は無事終了しました。山口校では前日に予行練習を行っており、学生たちもきりりとした態度で臨み、立派に卒業していきました。



数えてみれば、私が校長として式辞を述べるのは今年の YIC 調理製菓専門学校が 18 回目です。(今年のような兼務もありましたので 18 年ということではありません。) 学校数でいえば 7 校目です。私は器用貧乏で広く浅くという特徴があるということは以前このたよりで紹介したかと思います。まさにそのことを表している状況ですね。毎年式辞の内容はその年ごとに構想していますが、何回も経験していくうちに、卒業生に伝えたい内容が絞られてきました。特に専門学校から社会に巣立とうとしている学生たちへのメッセージは専攻や職種が違って同じことを伝えたくくなります。ここ数年は「誠実」ということばを毎年卒業生に送っています。「何よりも自分自身に対して誠実に」というものは外せないフレーズになっています。詳しい内容は省略します。来年また同じ内容を挿入するでしょうから。

次に考えたのは小倉に行けるのだろうかということですね。午後には北九州校の卒業式が控えていましたから…。新幹線は動いていたのでしょうか。続きは北九州校の KOCHO だよりで～。

○ 自校自賛 ~~~~~ 上記のとおり